

平成 30 年
菊川市こども議会

平成 30 年 7 月 30 日 (月)

菊川市こども議員名簿

	小学校名	氏名	性別	題名	議長
1	六郷小学校	なかむら かほ 中村 香穂	女	菊川の未来 ～様々な世代が住みやすい街に～	加茂小学校 岸岡璃奈
2	小笠南小学校	まつした あおい 松下 碧	男	人がいっぱい集まってくるまち 菊川	
3	加茂小学校	にしだ なな 西田 奈夏	女	よりよい菊川市のために	
4	小笠東小学校	あかほり ゆうか 赤堀 友香	女	未来の菊川について考えよう	
5	牧之原小学校	やまざき かなと 山崎 叶翔	男	人がいっぱい集まるまち 菊川	堀之内小学校 勝浦悠河
6	小笠北小学校	いわもと せな 岩本 瀬央	女	菊川市をよりよくするために	
7	河城小学校	むとう まほ 武藤 真帆	女	人と人がもっと関わりあう町	
8	六郷小学校	くりた このん 栗田 小暖	女	こんな町にしたいな 未来の菊川	
9	小笠東小学校	ふくだ ゆうが 福田 優翔	男	お茶がさかんな菊川を目指して	小笠南小学校 松下 碧
10	加茂小学校	きしおか りな 岸岡 璃奈	女	菊川エクスプローアプロジェクト	
11	河城小学校	かめやま えりこ 亀山恵理子	女	自然豊かな菊川に	
12	堀之内小学校	ごとう はるな 五島 春奈	女	菊川市が魅力でいっぱいのまちにしたい	
13	内田小学校	ふじおか ももな 藤岡 桃奈	女	こんなまちにしたいな 未来の菊川市	小笠北小学校 岩本瀬央
14	堀之内小学校	かつうら はるか 勝浦 悠河	男	菊川市の歴史遺産「オット」	
15	横地小学校	やぎ さあや 八木 彩文	女	応援でみんな楽しくみんな笑顔の菊川市	
16	小笠北小学校	まつもと たいき 松本 大輝	男	お茶やお米を学べる博物館をつくるには	

菊川の未来 ～様々な世代が住みやすい街に～

六郷小学校6年2組 中村香穂

私の住んでいる菊川市は、自然がいっぱいの緑豊かな街です。菊川市のあちらこちらには公園、駅の近くには児童館などの公共施設があり、福祉施設も充実していて、お年寄りや子供達が暮らしやすい環境の整ったよい街だと思います。

しかし、その一方で若い世代の大学進学にともなう菊川離れは菊川市が抱える問題の一つだと思います。大学に進学した多くの若い人達は、就職先がないなどの理由で、都会での生活を余儀なくされています。実際に私の家の地区でも、二十代の若い世代がどんどん減る一方で、お年寄りはとても増えています。若い世代が減ると、人口減少につながったり、後継者不足につながったりすると思います。

三年生の時、菊川市のお茶の学習をしました。菊川の茶産業は素晴らしく、深蒸し茶発しょうの地のお茶として、多くの人々に愛されています。しかし、その学習では、お茶農家の後継者不足を知りました。菊川市の恵みである茶産業も、後継者がいなくては成り立たないと思います。そこで私は、若い世代が関心をもてるように、特に都会に住む人を対象にしたお茶農家体験ツアーを考えました。お茶農家に数日間とまって、お茶摘みやお茶作りを実際に体験してもらおうのです。大変なことももちろんあるでしょうが、お茶とともに生きるよさを味わってもらえると思います。また、お茶の消費を上げ、お茶農家を助けるために、自分が摘んだお茶が自分専用のおかしになるような仕組みをつくったらどうでしょうか。カップめんやおせんべいの工場で行われているような仕組みを、お茶を使ったおかしにも取り入れるということです。どんな人も、お茶への親しみが増すと思います。

以前、「昔は、電車で菊川駅を降りると両側に商店街があって、とてもにぎわっていた。今は、シャッターが閉まってしまったけれど、五丁目には映画館があったんだよ。スーパーなどの食品を売っているお店も今より多く、洋服屋さんやくつ屋さんもたくさんあったんだよ。」と祖母から話を聞きました。私は、若い世代が輝く活気ある街を取り戻したいと考えました。例えば、ふだん気軽に行くことができる商業施設があったらどうでしょう。いろいろなお店が入った商業施設なら、たくさんの方が買い物に訪れると思います。インターネットで魅力的な情報を発信すれば遠くからお客さんを呼ぶこともできるかもしれません。この施設の一角に、菊川市をPRする場所をつくれれば、一石二鳥はないでしょうか。若い世代の働く場所が増え、今よりもっと魅力的になれば、菊川の未来はみんなが輝いて生活しやすく、自然がある中で産業が発展していく便利な街になると思います。

「人がいっぱい集まってくるまち 菊川」

小笠南小学校 6年1組 松下 碧

ぼくは、菊川市を人がいっぱい集まってくるまちにしたいです。その理由は、ぼくが生まれたまち菊川をたくさんの人に知ってもらいたいからです。菊川市にはたくさんの方がいますが、そのことをたくさんの方が知っているかという、そうは思いません。よさがあってもたくさんの人に知ってもらわないともったいないと思うのです。菊川市をPRするために、市外の人や外国の人たちにパンフレットを配れば菊川市のよさが伝わると思いますが、しかし、パンフレットをただ配るだけでは何のPRにもなりません。受け取った人がすぐに捨ててしまうこともあるでしょう。パンフレットにも工夫をほどこすことが必要だと思います。内容や色づかい、持ち運びやすい大きさ、様々なことを考えなければならぬと思います。内容は菊川市のオススメスポットやおいしいものを紹介し、写真や地図なども入れて見やすい色づかいにすると良いと思います。オススメの商品がどこで手に入るのか、詳しく分かると思うからです。大きさは観光客が手にしながら歩けるように、片手で持ち運べるくらいの大きさが良いでしょう。みなさんは菊川市のどんな所をオススメしますか？ぼくがオススメする場所は“炭焼きレストランさわやか”です。菊川市はさわやか発祥の地です。ぼくの担任の先生もさわよかのハンバーグを絶賛しています。おいしい写真掲載し、食べた人の感想なんかものせれば、「食べてみたい」と思う人も増えることでしょう。

また、菊川市をたくさんの人に知ってもらうために、ぼくは、“きくのん”に目を付けました。きくのんをもっと有名にすれば、菊川市のPRになり、たくさんの方が菊川市に興味を持ってくれると思います。ぼくも菊川市に住んでいます。が、“きくのん”についてあまり知りませんでした。頭に湯飲み、おなかに急須が付いていることも最近知りました。なので、市外の方は余計知らないと思います。“きくのん”について知ってもらえれば、菊川市のゆるキャラがいるということだけでなく、いっしょにお茶が有名だということまで知ってもらえます。深蒸し茶発祥の地として有名な菊川をPRするために、“きくのん”もパンフレットにのせて使えば良いと思います。

このように菊川市のゆるキャラきくのんを使って、菊川市の良さを伝えていけば、菊川市に興味を持って、来てくれる人も増えるでしょう。もし、人が増えなかったとしても、菊川市に良い印象を持ってくれんじゃないでしょうか。そして、その人たちが周りの人に良さを伝えることで、どんどんつながりができ、菊川市が有名になっていくのではないのでしょうか。今まで以上に菊川市に人がいっぱい集まってくるように、きくのんとパンフレットを使ってPRする方法を提案します。

よりよい菊川市のために

加茂小学校6年2組 西田 奈夏

私たち加茂小では、4月から菊川市のことを調べてきました。私たちとしては菊川市は、お茶が有名で、自然が多く、きくのんというかわいいご当地キャラがいる素敵な町だという結論が出ました。しかし、親や親戚、近所の方などにアンケート調査をした結果、思った程、菊川市の魅力が知られていないことに気付きました。社会科見学で静岡市の登呂遺跡に行った際に行ったインタビューでは、きくのんを知っている方は、六十一人中たったの一人という結果が出ました。これには、私たちも驚き、ショックを受けました。もう少し知っている人がいてほしいし、菊川市の魅力がたくさんあるのにと考えたからです。

そこで、私たちは、菊川市のよさをもっと広めていきたい、そして菊川市をよい魅力ある町にしていきたいと考えました。

今回、子ども議会という場があることを知り、学級で話し合い二つのことを提案させてもらいます。

一つ目は、菊川市に道の駅をつくるというものです。道の駅をつくることで、菊川市のよさをアピールしやすくなると思えました。人がたくさん集まる道の駅には、その土地の名産品や特産品がたくさんあります。また、試食・試飲コーナーがあったり、休日にはご当地キャラとのふれあいイベントが催されたりします。これを菊川市で行えば、菊川茶のよいPRになると思います。試飲コーナーなどでおいしさや健康にも良いことなどを伝えれば効果も大きいと思います。くずしやりなどの名産品も一度味わえば、また買いたくなるおいしいものだと思います。菊川の農家さんの野菜を並べることで、地産地消にもつながり、菊川の農業の活気も出ると思います。

二つ目はSNS等による情報の発信です。インターネットによる情報ツールは、一度にたくさんの人に見てもらえることができる大変有効な手段だと勉強しました。菊川のよさを発信していけば、世界中に広がっていきます。ただ、その反面、正確性に欠けたり、良くない情報も広まったりするなどのデメリットも考えられます。そこで、なんでも情報を発信するのではなく、菊川市のブルーベリー農場や黒田家代官屋敷などの菊川の名所にQRコードを置き、QRコードを読み取るときくのんのLINEスタンプがもらえるという案を考えました。菊川に訪れた人だけがもらえるという特別な感じも素敵だなと考えました。この案は、スタンプラリー風にして景品をつけたり、菊川の商店で使える割引券がもらえたりするなどの菊川市に人が集まるための発展したかたちも考えられると思います。

私達は今菊川市について学習している途中です。これから市役所の方に話を聞いたり、他の市の様子を学習したりしていきます。今の提案もより進化させていけたらと思います。

「未来の菊川について考えよう」

菊川市立小笠東6年1組 赤堀 友香

みなさんは、未来の菊川市のことを考えたことがありますか。私はチャレンジという授業で、菊川について勉強するまで考えたことがありませんでした。では、今まで菊川市に住んでいて、未来の菊川について考えたことがある人もない人も、この機会に一緒に考えてみませんか。

私は未来の菊川は、住んでいる人も多く、観光客が多いまちにしていきたいと考えました。その理由は、面積94.19㎓に対して、人口は16,811世帯47,823人というように面積の割には人口が少ないからです。それに、今は老人が多く子どもが少ない時代です。だから、親と子どもが安心して暮らせて、親子に人気の子育てがしやすいまちにしていきたいと思います。そうすれば若い世代の人たちが増え、人口が増え続けると思っています。

菊川市は、東海地方で育児をしやすい市ランキングで1位になったことがあります。その時と同じようなことをすればいいと思います。例えば、児童館や安心して子どもを預けられる子ども園などを菊川市内にもっと増やせば、親子が入ってくると思います。それにアパートやマンションと子ども園を合体させた住みやすい場所、環境を作ればいいと思います。今は、父母同じように働く時代です。それに、保育士が少ない時代でもあるので、保育園に入れない子どもが多いそうです。だから、東京のように仕事場と子ども園を合体させたアパートやマンションをたくさん菊川市に作ればいいと思います。

次に、子どもが遊べる施設を作ればいいと思います。静岡市にある科学のことを知ることができる「るくる」や、御前崎市の原発の近くにある「浜岡原子力館」のように、静岡には遊びながら科学を楽しく学べる子ども施設があります。このような施設を菊川市にも作ればいいと思います。菊川市には、季節感のある施設がとても少なく、子どもが楽しめる施設は限られています。だから、屋内のプールや公園、冬にはスケートができる施設を作ったり、子ども園の遊具をもっと増やしたりすればいいと思います。そのために、菊川市の税金をたくさん集めて、楽しい環境を作ることに使ってほしいです。このようにしてまずは、観光客を増やすことを考えるだけでははく、菊川市の人口を増やすことから考えた方がいいと思いました。

さて、ここまでは人口について考えてきました。次は、観光客を増やすことについて考えていきます。観光客を増やすには、まず菊川の特産物を増やせばいいと思います。では、今の菊川にはどんな特産物があるのでしょうか。私が市役所の方に聞いた話によると、菊川市の特産物は、お茶、ちゃまめ、だそうです。その他にも米、メロン、キャベツ、トマト、オリーブ、そら豆も特産物にして行きたいと考えているそうです。これらの物も菊川市の特産物にして、もっと菊川市をPRし、少しでも観光客が増えるといいなと思います。

このようにして、人口が増え子どもがたくさんいて、観光客も多く来る活気のあるまちが、私の目指す菊川市の理想像です。

「人がいっぱい集まるまち 菊川」

学校組合立牧之原小学校6年1組 山崎 叶翔

ぼくは、菊川市を人がいっぱい集まるまちにしたいと思っています。菊川市を人がいっぱい集まるまちにするために、3つのことを考えました。

1つ目は、スポーツを有名にすることです。今年、平昌オリンピックでカーリングが有名になりました。ぼくは、テレビでカーリングを見たとき、カーリングをやってみたいなと思いました。そうしたら、ニュースで一般の人がカーリング場でカーリングを楽しんでいるところを見ました。とてもうらやましい気持ちになりました。だから、自分の家の近くか菊川市内にカーリング場があったらいいなと思いました。今、静岡県内にカーリング場があるまちは、調べましたがありません。菊川市内にカーリング場ができれば、たくさんの人がカーリングをやりにくると思います。ぼくも、カーリング場ができたら、遊びに行きます。きっと、菊川市外からも多くの人がカーリングに興味をもって遊びに来ると思います。また、面白いな、楽しいなと感じたら一回の利用で終わることなく、二回三回と何回でも楽しむことができます。カーリング場を造ることは、菊川市に人が集まることにつながると考えました。

2つ目は、菊川市内に大きなデパートを造ることです。ぼくは、家族で買い物に行くとき、菊川にあまり行きません。家族で、磐田にあるららぽーとによく行きます。理由は、ららぽーとは、大きなフードコートがあり、お店もたくさんあるからです。いつもららぽーとに行くと、こんなに大きなデパートが自分の家の近くにもあったらいいなと考えていました。そしたら、車での移動の時間も短くなるから、お店に長くいることができるし、友だちと一緒に遊びに行くこともできるからです。今、菊川市には、大きなデパートはありません。だから、菊川市に大きなデパートができたら、人がたくさん集まってくるのではないかなと考えました。

3つ目は、菊川市のゆるキャラ、「きくのん」をもっと有名にすることです。今年の二月に、牧之原小学校にきくのんが来てくれました。その時、きくのんは大人気できくのんを知らなかった人たちもきくのんを知るきっかけになりました。きくのんが菊川市内だけでなく、菊川市外の色々な場所に行って宣伝活動をすればもっとみんなに知ってもらえて有名になるのではないかと思います。また、よくテレビやCMを見るとくまもんやふなっしーをはじめ、たくさんゆるキャラが出ています。しかしぼくは、テレビやCMできくのんを見たことがありません。テレビやCM、またパンフレット等できくのんをアピールして菊川市が有名になれば、今以上に人が集まってくると思います。だから、きくのんがもっと有名になればいいなと考えました。

以上3つのことが菊川市に人がいっぱい集まってくるきっかけになると考えました。

「菊川市をよりよくするために」

小笠北小学校 6年2組 岩本瀬央

私は家族みんなで菊川市に住んでいます。家族がすぐそばにいてくれる菊川市が大好きです。おじいちゃん、おばあちゃん、おじさんもおばさんも菊川市に住んでいます。家族だけではなく、近所のおじさんもおばさんもみんなが優しく声をかけてくれます。みんなに見守られていると思うととてもうれしいし、安心します。そんなとてもあたたかい町が菊川市です。

そこで、市外の方々でも住みやすく、温かい町だということをもっとたくさんの人に知ってもらいたいです。そのために、今よりももっと、住みやすい町づくりをすることが大事だと思います。私が必要だと思うことが四つあります。

一つ目は、事故、犯罪が少ない町です。毎日スクールガードさんがわたしたちの登下校を見守ってくれています。とても安心して学校へ通うことができます。みんなでルールを守れば、事故も犯罪も減ります。

二つ目は、自然が豊かな町であることです。4月は菊川公園の桜が満開になり、五月にはお茶が緑色のじゅうたんみたいになって、六月は田植えされた田の水がキラキラかがやいていて、秋には稲で黄色のじゅうたんになるたんぼがたくさんあります。これからもずっと季節を感じられる町でい続けてほしいです。

三つ目は子育てしやすい町にもっとしていくことです。私が住んでいる菊川市では、昔に比べて子どもの数が減っているため、空き教室が増えてきました。その教室を利用して、地域の人たちが利用できるコミュニケーションの場所にします。地域の人と一緒に菊川市のことを勉強したり、色々な人たちと交流したりすることができればとっても楽しい場所になると思います。

四つ目は、お母さん同士が仲良くなれるようなカフェつき公園を作ります。子どもせん用カフェもほしいです。みんなで楽しく子育てできる環境になれば菊川市の人口が自然に増えると思います。人口が増えれば、町も元気になると思います。そして、ぜい金をおさめる人が増え、菊川市にお金がたくさん入ってきます。

そのお金で菊川市アピールせん用のレストランを建てます。菊川市でつくったお茶や、野菜、果物を使って、料理やデザートを出します。きくのんには入り口でお客さんをいっぱい呼びこんでもらいます。茶ラリーマンには、レジで会計をしてもらいます。きっとお客さんは喜んでくれると思います。

菊川市の自然を生かして、花などたくさん咲いているところにお店を建てて、自然いっぱいの中で食事ができるようにしたいです。できれば、ロープウェイをつけて、菊川市全体が見えるようにしたいです。

たくさんの人に、菊川市の良いところを知ってもらえば、たくさんの人に菊川市に来てもらえると思います。私はこの菊川市がこのままずっと良い町でいてもらいたいです。

「人と人がもっと関わりあう町」

河城小学校6年2組 武藤 真帆

私は、未来の菊川が、人とのつながりがもっと深まる町になってほしいです。私は、今の菊川は、近所づきあいが良い方だと思います。しかし、すべての人が近所づきあいが良いというわけではありません。菊川市に住んでいる人の中には、家の中で、ゲームやまんがばかりの生活をしている人もいますかと思っています。私になってほしい菊川はそんな菊川ではありません。そこで、ゲームやまんがばかりの人にも、人との関わりが楽しいことを知らせることが大切だと思います。

そのために、私は方法を2つ考えました。

1つ目は、「呼びかけ看板」を作ることです。呼びかけ看板とは、「だれにでもあいさつ」など、こうしたら人とのつながりが深まるということを書いた看板です。私は島田市に、「明るいあいさつ」と書いた呼びかけ看板があるのを見つけました。そして、島田市の友達がだいたい明るいことにも気づきました。明るいのは、看板のおかげでもあると思います。ですから、菊川市のあちらこちらに、人とのつながりに関係のある標語を書いた看板をおけば、人とのつながりがもっと深まるのではないかと思います。

でも、「看板を見なかったら、意味がないのではないか」と考える人もいるかもしれません。そこで2つ目の方法です。

2つ目の方法は、人との関わりを増やすイベントを開くことです。私が住んでいる河城地区では、以前、「郷土かるた大会」が開かれていたそうです。この大会には、子どもばかりではなく、PTAの方々も参加してくださっていたそうです。私は、子どもから大人まで楽しめるかるた大会は良いと思います。しかし、今、かるた大会を開いても、人が集まらないと思うので、みんなが感心のあるイベントを考えました。例えば、ドッジボール大会や、おにごっこなどを、みんなで行えば良いと思います。あと、河城学区では、地区大会を行っています。地区大会とは、地区対抗でのミニ運動会のようなイベントです。しかし、運動会とは少し違うところがあります。それは、運動が苦手な子も楽しめる種目があることと、大人も参加できることです。私は、運動が苦手な子も楽しめ、さらに子どもからお年寄りまで参加できると、みんなが楽しめて良いと思います。しかも、この地区大会に参加することで、今まで知らなかった人とも、関わり合えることができます。今は、河城地区だけで行っていますが、その輪を広げ、中学校別などの、菊川市全体で行ったら良いと思います。

このように、人とのつながりを深める方法はいろいろあります。この2つの方法なら、建物を建てることもないので、お金もあまりかかりません。しかも、興味を引くために、みなさんにとって興味深いイベントにしてあります。私はこの2つの方法を取り入れて、未来の菊川の住民が、仲良く、そして、楽しく過ごせる菊川市にしたいです。

こんな町にしたいな 未来の菊川

六郷小学校6年1組 栗田小暖

私は、生まれてから十二年間ずっと菊川市に住んでいます。正直に言うと、原宿など東京の大都会にも少し興味があります。しかし、都会は時々遊びに行くのはいいけれど、住みたいと思っただけではありません。静岡県は東京ほど大都会でもないし、すごく田舎でもない。交通機関を使えば、ディズニーやユニバーサルスタジオにも行けるちょうどいい位置にあるのが私は好きです。そして、今住んでいる菊川市も同じで、毎日がおだやかで、地域の方々に見守られて安心して暮らしているこの町が大好きです。

そんな菊川市の中でも、私は噴水公園から赤レンガ倉庫までの歩く道がお気に入りです。その理由は、私が菊川で一番好きなイベントの「夜店」で友達と歩けたり、お母さんと一緒に行った「まめまめマーケット」のふんい気が印象に残っていたりするからです。その噴水公園が、今よりもっとすてきになったら、人がたくさん集まるのではないかと思います。そのために、転んでいたくないように芝生にしたり、季節のお花を植えてみたり、小さな子どもを連れてお母さんや、お年寄りたちが休けいできる日かげを作って、ベンチを増やしたりすると思います。また、夏は噴水で水遊びができて、ソフトクリームやフレッシュジュース、菊川のお茶で作ったスイーツなどを買えるおしゃれなお店があれば、若い人たちにも人気が出るのではないのでしょうか。そして、週末には、年れいや国せきに関係なく交流できる音楽やスポーツのイベントを企画したらどうでしょうか。お年寄りからは昔話を、外国人からは外国語を教えてもらうこともできます。子どもたち向けに紙芝居の読み聞かせや色々な勉強会などをひらいてみるのもいいかもしれません。そんな活気のある公園に行けば、わくわくするような楽しいこと、様々な人と出会えるチャンスがたくさんできます。笑顔あふれる公園です。そして十年後、ここで出会った二人が、思い出の遊歩道でフラワーシャワーを浴びながら歩き、赤レンガ倉庫の前で結婚式を挙げられたら、なんてすてきなことでしょう。生まれ育った土地でみんなに祝福され、幸せのようせい、「きくのん」に見守られて結婚した二人は、きっと幸せに暮らすことでしょう。私は、今もそして十年後も、おだやかで温かい菊川市であることを願っています。地域のみんなでお互いを見守り合えるような、そして、小さな子どもからお年寄りまで笑顔があふれるような町であって欲しいと願っています。そんなすてきな町の一員でいられるよう、私自身も温かな心で、人や自然、そして、この町と接していきたいと考えています。

お茶がさかんな菊川を目指して

小笠東小学校 6年2組 福田優翔

今年の総合の学習でぼくたちは未来の菊川について考えています。みんなで意見を出し合い、市役所の人に話を聞き、調べたり考えたりする中で、ぼくが考える未来の菊川は、やはり、もっとお茶が有名な町になってほしいということです。わけは、お茶はおいしいけれど、全国的には有名ではないからです。三年生のころお茶について調べたけれど、菊川のお茶のことについてはくわしく調べていなかったの、今回は菊川のお茶のことを中心に調べてみました。

菊川市は、静岡県お茶生産量ランキング四位で、3980トンでした。県内では意外に多い方だなと思ったけれど、お茶農家が減っていることも分かりました。なぜ減っているのだろうと思って、出前講座に来ていただいた企画政策課の人に質問をしました。今までお茶で働いていた人たちが年をとってしまいお茶農家をやめてしまう人や、昔に比べて今のお茶の収入が少なくやめてしまう人がいるからだというお話をしていただきました。そういえばくすりんめぐりという遠足で今年横地城に行った時、放置されたままで伸び放題伸びている茶畑を見つけました。普通茶畑といたら、丸いかまぼこの形をしているのに、なんでこんな形をしているのかなあと思いました。でもさらに、放置されている茶畑ややめてしまう人が多いのに、生産量が増えていることが分かりました。昭和50年と平成17年を比べると500トン増えています。わけは、科学技術が進歩したからだと思います。人が減っても生産量が増えていたので一安心しました。ですが、これ以上お茶農家が減ってしまえば、いくら技術が進歩しても生産量が減ってしまうにちがいありません。なので、若い人たちにもっとお茶農家になってお茶をもっと有名にしてほしいと思いました。そのために、お茶作り体験やPRをして、お茶作りのよさを伝えていったらどうかと思います。

クラスでの未来の菊川の発表会で友達の発表を聞き、他にも菊川にはいいところがいっぱいあるなと改めて思いました。ぼくの考える「お茶」と、友達が考えていた「特産物」や「スポーツ」と結び付けることもいいなと思うし、「ボランティア」を考えた友達からヒントをもらえそうな気がします。例えば、お茶本来の良さや効能を生かし、新たな特産物を開発し有名にする。そうすれば、町に活気が出てくると思っています。活気が出てみんながお茶で健康になれば、スポーツも盛んになると思っています。お茶農家の減少、高齢化について、ボランティアの観点から手伝えることはないか考えられるかもしれません。

最後に、今のぼく自身にできることを考えてみました。菊川のお茶をいっぱい飲むこと、修学旅行で菊川のお茶をPRすることぐらいしかありません。あとは、未来の菊川についてこれからも考えながら菊川のじまんが少しでも増えるように、今は大きいことはできないけれど、東小のじまんを増やせるように、毎日の学校生活をがんばっていきたいと思います。

菊川エクスポローアプロジェクト

加茂小学校6年1組 岸岡 璃奈

「菊川エクスポローアプロジェクト」菊川市の特長や魅力を調べる活動に取り組んでいる私たちは、活動にこの名前を付けました。

最初に、私たちは、「菊川市の特長・魅力は、お茶・公園・ゆるキャラ・自然・住みやすさである」という仮説を立てました。

次に、仮説を確かめるために地域や他の市の方たちに菊川市の特長・魅力アンケートを実施しました。集計してみると、仮説と大人の考える特長・魅力には少し違いがありました。私たちが魅力だと考えていたゆるキャラのきくのんは、菊川の魅力にはなっていないと考える大人もいました。

さらに、静岡市に社会科見学に行った際に、きくのんを知っているかインタビューをしたところ、ほとんど知られていないことがわかりました。アンケート調査やインタビュー調査の結果から、菊川市の情報をもっと市外へ発信する必要があることを感じました。そこで、私たちが話し合っただけで考えた菊川市のよさを発信するための工夫を二つ提案させていただきます。

大きな提案の一つ目は、ゆるキャラを生かした新商品を開発することです。例を二つ考えました。一つ目は、和がしです。きくのんをプリントしたまんじゅうなどであれば買いやすく、多くの人にゆるキャラのことを知ってもらえます。また、和がしは菊川茶を生かした味にし、お茶のおいしさを伝えます。iPadで調べたところ、すでにきくのんクッキーが開発されていますが、和がしの方がお手ごろな価格で、よりお年寄りから子どもまで好まれると考えたのです。

二つ目は、文房具です。茶ラリーマンえん筆などなら、使いやすく、ゆるキャラを目にする回数が増え、きくのんなどをより好きになってもらえます。また、文房具に菊川市の特長を印刷すれば、市内や市外の人に特長を広めることができます。

大きな提案の二つ目は、イベントを開催することです。具体的には、スタンプラリーやマラソン大会を考えました。菊川のおすすめの場所やお店、自然が美しいところにスタンプを置いたり、そこを走ったりしてもらえば、ゆっくりとそのよさを味わってもらうことができます。さらに、イベントのチラシに菊川市の情報をのせれば、イベントに参加した市内や市外の人に菊川市のよさを知ってもらうことができます。この提案のよいところは、もともと菊川市にあるものを活用しているので、新しいものを作る必要がないところです。また、先ほど提案した新商品をイベントで売ることによって宣伝の効果がさらに大きくなると考えたのです。

私たちの活動は、まだ途中です。これからさらに情報を集め、よりよい菊川市の町作りのために何ができるか考え続けていきます。

「自然豊かな菊川に」

河城小学校 6年1組 亀山 恵理子

私は、菊川市が大好きです。なぜかというと、菊川市は自然豊かで緑がいっぱいだからです。しかし、自然を利用した施設や、緑を増やす活動は大々的には行われていません。そこで、私は、未来の菊川市も自然豊かで緑いっぱい菊川市であってほしいと考え、四つの対策を考えました。

一つ目は、ホテルが住める場所を増やすことです。私が住んでいる河城地区は、毎年ホテルの里という、自然の中でホテルを実際に見ることができるイベントがあります。ホテルがぽつぽつと飛び交う景色をみることが好きで、よくそのイベントに参加しています。しかし、ホテルを見られる場所はあまり多くありません。ホテルは、水がすんでいてきれいな川にしか生息しないということを知りました。そこで、私はホテルが住みやすい環境を作りたいと思います。ホテルが住みやすい環境にするために、ボランティアをつのりゴミ拾いをするのはどうでしょうか。そうすれば、ホテルが住みやすい環境になり、ホテルが見られる場所が増え菊川が自然豊かであることをアピールできると思います。

二つ目の対策は、木や花を植える活動をすることです。今の菊川も自然豊かで緑がいっぱいですが、未来につなげるためにも、もっと木や花を増やすことが必要だと考えました。木や花を増やすことで、ホテルだけではなく他の生き物のすみかも増えると思います。また、緑が増えると、地球温暖化防止にもなります。そうすれば、もっともっと自然豊かな菊川市になるでしょう。

三つ目の対策は、菊川市内の小・中学校で、菊川市の自然について調べる学習を取り入れることです。菊川市には、どんな木や花が植えられているのか、どんな生き物がいるのかを調べることで、菊川市が自然豊かであるということを知ることができると思います。また、自然に興味をもった子どもたちが、木や花を増やす活動にも参加してくれると考えたからです。小さいころから、自然に対する知識をもち、自然と触れ合うことで、未来の自然豊かな菊川市を守ろうとする思いが生まれると思います。

四つ目の対策は、森の中を散歩しようというイベントを企画することです。このイベントのねらいは、春、夏、秋、冬と季節ごとに変わる森の風景を楽しんでもらい、自然を身近に感じてもらうことです。春は桜やうぐいすの鳴き声、夏は新緑とセミの音、秋はもみじや虫の音、冬は葉が落ち次の春を待ちわびている木の幹がそびえ立つ姿を、参加者に目や耳、はだで感じてもらいたいと考えています。このイベントは、自然を感じるだけでなくリラックス効果も期待できます。

この四つの対策が実現できたら、菊川市の自まんを菊川市民だけではなく、多くの人たちに知ってもらえ、関心をもつ人たちが増えると考えています。そして、今よりももっと自然豊かで緑いっぱいの菊川市になると思います。

菊川市が魅力でいっぱいのまちにしたい

堀之内小学校 6 年月組 五島 春奈

菊川市に住むわたしたちが、買い物や映画など楽しいことをしようとしたら、菊川市じゃないところ、浜松市や静岡市、磐田市などに行かなければいけません。社会科の歴史の学習では、登呂遺跡や蜷塚遺跡のように遠くまで行かなければいけません。

菊川市では、できないのでしょうか。いえ、きっとできます。だから、菊川市の魅力を増やし、人々の集まるまちにすることを提案します。

最初は、「赤レンガ倉庫」です。町の歴史であり、菊川市のシンボルでもある赤レンガ倉庫は、わたしたちのまちの誇りです。でも、今の赤レンガ倉庫は十分に機能していません。そこで、赤レンガ倉庫の一部を資料として残し、横浜の赤レンガ倉庫のように資料館として使うことはできないでしょうか。駅前にある良さを活かし、菊川市に来た人が気楽に立ち寄れるように、一部を喫茶部として解放し、菊川市の特産である深蒸し茶やお茶を使ったお土産、地場産品などを販売するのもいいかもしれません。

また、菊川市の歴史資料館「どきどき」のパワーアップを提案します。菊川市は、石器時代からの歴史がある場所だと知っていますか。私は、菊川市の出前講座ではじめて知りました。この市役所のある「高田っ原」は古墳だったそうです。今の歴史資料館どきどきは、登呂遺跡や蜷塚遺跡の資料館には負けています。でも、出前講座の時持たせてもらった、弥生時代のつぼや古墳時代の須恵器は、ガラスケースの中ではない本物の興奮を教えてくださいました。わたしたちが暮らしているこの地面の下には、今まで菊川市で暮らしてきたたくさんの歴史が眠っているんだということを教えてくれたのは、どきどきのみなさんのおかげでした。菊川市の歴史に、菊川市の市民が触れることができる魅力が個々にあります。赤レンガ倉庫の地区を整理し、学習する施設として活かすことができれば、菊川市から他の地区に出かけていた人たちをわたしたちの町菊川市に戻すことができるのではないのでしょうか。

私は菊川市が好きです。だから、菊川市にある魅力にもっと多くの人に知ってもらいたいと思います。菊川市に住む人々が、もっと菊川市を好きになってもらえるように、この二つを提案します。

「こんなまちにしたいな 未来の菊川市」

内田小学校6年1組 藤岡 桃奈

「菊川市と言えばこれ」というものが、実は思い浮かびませんでした。菊川市のゆるキャラ「きくのん」もいるけれど、全国で有名なゆるキャラに比べると、あんまり有名ではありません。観光客が遊びに来る場所もあまり無いので、観光客も少ないと思います。だから、私は未来の菊川市はもっと観光客が増えて欲しいと思っています。観光客が増えるのにぎやかになるので、住んでいる人も楽しくなると思います。

今の菊川市に何があるのか調べてみました。すると、お茶・内田の田んぼアート・ブルーベリーの里などいくつかあることが分かりました。それをもっと全国の人に知ってもらいたいと思いました。私が一番驚いたことは、さわやかなの1号店が菊川に最初にできたこと、たこまんの本社が菊川市にあるということです。このことをもっとたくさんの人に知ってもらいたいので、インターネットや市内に案内板を作って、他の県や市に負けない菊川市の魅力を伝えたいです。

他にも、菊川市に遊びに行こうと思ってもらえるようにしたいと思います。例えば、高速道路インターの近くに菊川市の道の駅を作ったり、市内の真ん中にミニミニふれあい動物園を作ったりするのもいいと思います。そこでは、お年寄りの方が働いていて、遊びに来た人達とふれ合える公共の場所を作りたいです。そして、ここでは、色々な体験コーナーがあり、小笠のブルーベリーを使ったジャム作りやお茶摘み、お茶の入れ方を体験するコーナーを作ります。さらに、お土産売り場を作って、たこまんのお菓子を売ったり、さわやかなの人気メニューが食べられたりするお店を作ります。また、きくのんのグッズを売っているお店や、菊川市の魅力が詰まったパンフレットなどを置くコーナーを作ります。そうすることで、菊川市に遊びに来た観光客が、この場所を気に入ってくれ、色々な人に広がって「菊川市に遊びに行こう。」と言ってもらえたらうれしいです。だから、そのような場所を作ることを提案します。

それ以外にも、菊川市には山がたくさんあるので、山の中にアスレチックを作ってみるのもいいと思います。アスレチックで遊んでいると、とてもものが乾いてきます。だから、途中で休憩場所を作って、菊川市特産のお茶を出します。お腹がすく人もいると思うので、レストランやカフェも作って、特産のお茶を使った料理や、スイーツを出します。インスタ映えしそうな料理を出せば、SNSで拡散され、たくさんのお客さんが来ると思います。この中の一つでも良いから、実際にやってみて観光客がたくさん来るようになったら、お店をもっと増やしたら良いと思います。

子ども議会の話をもらった後、今の菊川市や未来の菊川市について真剣に考えました。それまでは、菊川市の魅力など全然分かっていませんでした。しかし、菊川市には魅力的な場所があるということが分かりました。私が大人になり「菊川市出身です。」と言った時、「あの菊川市ね。」とみんなが分かるような菊川市になるといいです。そのために、まずは、今菊川市に住んでいる人が、もっと菊川市の魅力を知る必要があると思います。

私は菊川市が大好きです。未来の菊川市も魅力あふれ、自慢できる菊川市であって欲しいです。

菊川市の歴史遺産「オット」

堀之内小学校6年雪組 勝浦 悠河

みなさんは「オット」という言葉を耳にしたことがありますか？

大正時代から昭和初期に、菊川市の堀之内から御前崎市の池新田までを軽便鉄道が走っていました。「オット」というのは、軽便鉄道で使われていたディーゼル機関車の愛称です。明治時代に東海道本線が開通して菊川の駅が出来ましたが、道路整備や自動車が未発達の時代だったので、支線としての鉄道が必要でした。そのため、堀之内から池新田まで鉄道を敷き、ディーゼル機関車を走らせることになりました。そこで活躍したのが「オット」です。小柄で色や形も可愛らしく、当時の人々からとても愛されていました。しかもディーゼル機関車が客車を引いて走ったのは、この菊川市に敷かれた軽便鉄道が日本で初めてだったそうです。こんなにも誇らしい「オット」でしたが、道路整備や自動車の発達が進み、わずか12年でその役目を終えてしまいました。

今となっては、「オットの道」と名付けられた線路跡や佐栗谷隧道というトンネルの一部が残っているだけで、ほとんどその名残を見ることはできません。しかも佐栗谷隧道は、夏場は草に覆われ、御前崎市側の入口は既に埋められています。菊川市側の入口は現存しますが、菊川市が設置したバリケードで塞がれており、立ち入ることはできない状態です。中には水が貯まってしまい、廃墟と言わざるを得ない状況です。赤レンガ倉庫と並ぶこの菊川市の歴史的な遺構が、このような状態のままになってしまっているのは、一鉄道ファンのぼくにとって、とても悲しいことです。ぼくにとって「オット」の存在は、菊川市の深蒸し茶よりも、深くて味わい深いものなのです。

そこでぼくは、この「オット」と「佐栗谷隧道」を菊川市の歴史遺産として復活させるべく、「佐栗谷隧道」の周辺に「オット博物館」を創ることを提案します。博物館を創ることで、菊川市の人たちに「オット」の魅力や歴史的価値についてもう一度理解してもらうことができるとともに、将来ここが菊川市の代表的な観光施設の一つになれば、県外の人たちも興味をもって菊川市にたくさん来てくれるのではないかと考えます。

具体的には、博物館内に「オット」についての概要や歴史的な資料を展示したり、運転席で写真を撮れるようなブースを作ったり、昔の菊川市内を乗車している気分を味わえるような映像シアターを設置したりすると、家族で楽しく過ごせる博物館になり、「オット」の魅力を広げることができるのではないかと思います。また、おみやげコーナーで「オット」のプラレールや停車駅の看板のレプリカなど、レアな商品を販売することで全国の鉄道ファンにも足を運んでもらえるような博物館になると思います。博物館の外では、模型を走らせて実際に乗車体験ができる場所を造ったりするのもいいと思います。

また、「佐栗谷隧道」について、ぼくは、修復して中が見られるようになればそれで十分嬉しいのですが、担任の先生は、修復をしてトンネルの中にオシャレなカフェを作り、「佐栗谷隧道カフェ」として営業すれば、若い人たちも興味をもって足を運んでくれるのではないかと考えていました。

このような理由から、ぼくは「オット」と「佐栗谷隧道」を、菊川市の大切な歴史遺産として復活させることを提案します。

「応援で みんな楽しく みんな笑顔の菊川市」

横地小学校6年1組 八木 彩文

私が望む未来の菊川は、『応援で みんな楽しく みんな笑顔の菊川市』です。

今、何かに悩んだり、自分に自信が持てなかつたりしている人はいませんか？

私は、体操の発表会の前日、自分の演技に自信が持てず、悩んだことがありました。そんな時、自分に力を与えてくれたのが「バラエティ番組」のようなおもしろい番組や楽しい動画でした。それを見ていると、自分を応援をしてくれているように感じて、自分の悩みもなかったようにすっきりしてくるのです。そして、自分に自信が持てるようになり、知らず知らずのうちに自分が笑顔になっていることに驚きました。

そんな自分の体験から、私の住んでいるこの菊川市のみんなにも、何にでも自信を持って笑顔で生活をしてほしい！悩んだり、自信がなくなったりした時には、みんなで応援して笑顔になってほしい！と思いました。私は、この菊川市を、応援で、楽しく、笑顔いっぱいのにしたいと強く思ったのです。

そこで、私は2つのことを提案します。

1つ目は、小学校、中学校、高校などに「菊川市の応援クラブ、または、応援部」を立ち上げることです。ここでの活動は、歌やダンスなどの笑顔・応援プログラムを考えて、みんなに披露し、みんなを笑顔にすることが目的です。

そして、みんなが参加できる会も企画します。小学校、中学校、高校などの「応援クラブ、または、応援部」のみんなで考え、企画し、菊川市のみんな、お年寄りから小さい子まで誰でも参加することができるようにします。毎日の活動の中で考えた応援プログラムを披露し、誰もが自信を持ち、誰もが前向きにがんばれるように応援していきます。

2つ目は、きくのんにもこの笑顔・応援プログラムに参加をしてもらおうということです。きくのんは2016年ゆるキャラグランプリで全国14位、ご当地ゆるキャラでは11位、そして、なんととっても静岡県で1位をとっている有名なゆるキャラです。誰からも愛されているきくのんにもぜひこの企画に参加してもらい、菊川市のみんなを笑顔にしてほしいと思います。

そこで私は、きくのんの応援ユニフォームを考えてみました。どうでしょうか？きくのんがそのユニフォームを着て、様々な企画に参加し、みんなと触れ合ったり、遊んだりするだけでもみんなが笑顔になれると思います。時にいろいろな園や学校、施設にも「応援クラブ、または、応援部」のみんなと訪問して、楽しい時間を過ごすことで、嫌なことや辛いことでネガティブになっていた人が元気になれると思います。前向きになるためにはまず笑顔にならないと駄目だと思うので、きくのんと一緒に活動をしたいと思いました。私はこの菊川市がもっと楽しく、笑顔あふれるまちになってほしいです。提案したことが実現できるように、みんなの役に立てる人になりたいと思います。

「お茶やお米を学べる博物館をつくるには」

小笠北小学校 6年1組 松本 大輝

ぼくは、お茶やお米をくわしく学べる博物館をつくったらいいと思います。なぜなら、菊川市はお茶やお米は有名だけど、お茶やお米について知っている人はあまりいないと思うからです。そこで、博物館をつくって、菊川市のお茶やお米を世界中の人たちに知ってもらいたいと考えました。

博物館をつくる良いところの一つ目は、お茶とお米の生産が有名だということです。そんな場所に、お茶とお米のことを学べる博物館が菊川市にあれば、全国の人が来てお茶とお米について知ってもらえるし、菊川が有名になると思うからです。二つ目の良いところは、この博物館によって人口が増えることです。博物館をつくれば、いろいろな人が来てくれて人口が増え、もしかしたら菊川市に住む人が増えるかもしれないからです。三つ目の良いところは、菊川市がにぎやかになることです。菊川市にお茶とお米の博物館があれば人口が増え、子どもが増えていくかもしれません。子どもが増えれば、にぎやかになるからです。そして、子どもが増えた方が、将来は仕事や社会に役立つからです。四つ目の良いところは、世界中の人がお茶とお米をくわしく知っている人が増えていくことです。お茶とお米をくわしく知るためには、博物館に来てもらい、お茶とお米の歴史や作り方をくわしく学んでもらえばいいと思います。そうすれば、たくさんの人がお茶やお米を知り、菊川市がお茶やお米でいっぱいになって、今よりも良くなると思うからです。五つ目の良いところは、農家の人喜んでくれる事です。お茶やお米を知っている人が増えれば、農家になる人も増えて作業が今よりも楽になると思うからです。それに農家の人に博物館に来てもらい、作業をどうすればお茶やお米がおいしくなるかを教えてもらい、よりおいしく生産量も増えると思うからです。六つ目の良いところは、お米とお茶を好きになってくれる人が増えることです。今やお茶やお米がきれいな人がいるかもしれないけれど、博物館をつくることで、お茶やお米を知って好きになってくれる人が増えてくれるかもしれないからです。

このように博物館をつくった方が、菊川市が良くなると思います。博物館をつくるには今使っていない田んぼや工場の跡地につくったらいいと思います。博物館をつくることで、菊川市がよくなるのがたくさんあるので、ぼくはつくった方がいいとおもいます。